

令和7年度 瑞穂市新規採用職員辞令交付式 市長訓示

皆さん、おはようございます。瑞穂市の将来を担う皆さんが、私たちの仲間として加わってくれたことを心から歓迎します。

今年は、穏やかな新年を迎えましたが、日本に繰り返し寒気団が到来し、山間部では大雪の豪雪となり、瑞穂市では朝方、積雪があっても、その日のうちに解けてしまう、とても住みよい瑞穂市です。また、山林火災も発生し住居が延焼するという事態。それが雨によって鎮火したという、雨頼みということに驚いています。対岸の火事と考えるのではなく、瑞穂市には山林がないのですが、災害状況を確認し防災・減災対策を備えていかないとなりません。待ち遠しい春でしたが、桜のたよりも聞かれ、この穂積庁舎の桜も、皆さんを迎えてくれました。

私は、新年度を迎えるたびに、中国の、唐の時代の漢詩にある「年年歳歳 花相似たり 歳歳年年 人不同じからず」を思い出します。花は年ごとに変わらず美しく咲きますが、私たち人は、3月31日退職され、そして4月1日になると新たな人を迎える。年ごとに同じではないと思います。昨日は3月31日をもって長年にわたり市のために尽された職員が退職し、本日新たに33名の仲間が加わりました。

新しく職員になった皆さんは、異なる環境で生まれ育ち、学んできたことも、性格も、趣味も、人生観も違いがあります。それぞれに違いがあり、個性的で多様であるからこそ、新しい考えやアイデアが瑞穂市に生まれてくるのだと思います。

今日から皆さんは、瑞穂市民の暮らしや安全を守ることや、まちづくりを行う瑞穂市民を支える、瑞穂市職員になりました。

私たちは、市民の生命に関わる災害や事故が発生すると、通常業務を超えて対応しなければなりません。市民の安心・安全を守ることは、この瑞穂市に愛着がなくてはできません。また、「瑞穂市に住みたい、瑞穂市に住み続けたい」と言ってもらえるような仕事するにも、瑞穂市に愛着がなくては、できません。その愛着は皆さんが、これから仕事をする中で 愛着度 を高めてください。

全職員が組織全体の目標や理念である「ウェルビーイングみずほ」～持続的な幸福

の実現～ に向けて 理解・共有しそれぞれの仕事を進めてもらうことが必要となります。

私の理想とする瑞穂市の組織像は、「皆さん一人一人の自育、自分を育てる力、個々の成長が組織の成長につながり 市役所全体が成長する」ことです。皆さんの成長には、欠かせない3つのことをお伝えします。

1 点目は、私たちは瑞穂市民のために働いています。「市民目線を大切にすること」市民目線とは、市民の意見、認識や感覚を尊重し、市民の寄り添い、信頼される職員になってください。瑞穂市職員としての立場と役割、責任感を持って「市民が求めていることを果たしているか」 また「期待に応える働きができているのか」自分に問いかけることを忘れないでください。

2 点目は、コミュニケーション能力を高めることです。コミュニケーションは まずは、挨拶、職員同士の信頼関係を築いてください。市民や上司に自分のことを理解してもらうには、相手の立場や状況を考え、どうすれば相手に正しく伝えられるかを考え、「気持ち こころをこめて伝える」ことを忘れないでください。

3 点目は、今日から皆さんには、与えられた仕事があります。どんな仕事であっても全てに 行う意味がある仕事ばかりです。その仕事に「やる気と行動力を持ち、最後まで着実にやりぬくこと」が「私が求める美しい仕事」になります。さらにプラスしますが仕事に工夫や、よい改善をすること、スピード感をもち自発的に動くことも忘れないでください。

以上の3点のポイントは、1.「市民目線を大切にすること」とは、市民の意見、認識や感覚を尊重し、市民に寄り添うこと、察する力を養い、瑞穂市職員としての役割、責任感をもつ。2.「コミュニケーション能力を高める」心をこめて伝える。3.私が求める「美しい仕事」とは、自発的にやる気と行動力、スピード感をもち最後までやりぬくこと。この3つになりますので、忘れることなく業務に励んでください。

皆さんは、今日から瑞穂市職員です。今年1月4日 仕事納め式で話したことから、今年進めていることを話し、共有したいと思います。

昨年から今年にかけて、市の最上位計画である「第3次総合計画」、「都市計画マスタープラン」、「子ども計画」をはじめとする「計画をたてる年」としました。これらの計画

は、今後10年先の社会情勢を見据え、どんな瑞穂市にしていかなければならないのかを総称したもので「みずほ未来まちづくり構想2035」と位置付けています。今年はその計画を完成させ、始める年「ウェルビーングみずほ ～持続的な幸福の実現～」が「始まる年」にしたいと仕事始め式で話しました。

子どもたちに関しては、昨年「瑞穂市子ども真ん中応援サポーター宣言」を行いました。子ども真ん中応援サポーター宣言とは、子どもには、自分で吸収して成長しようとするチカラを持っていて、私たちは、そのチカラをサポートし、成長の手助けをしてあげることが大切だという考え方が「瑞穂市子ども真ん中応援サポーター」になります。

「子どもたちにとって活躍する場があること」、「子どもたちにとって発表する場があること」、「子どもたちにとって体験する場があること」を、この3つを保育所、幼稚園、小中学校で、地域でも進めていきたいと考えています。私は、「こども真ん中社会」の構築は人口減少対策だと思えます。

また、今年の仕事始め式で、「瑞穂市ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。環境問題にも対応していきたいと考えています。そのためには、常に課題を持つ視点が必要です。

これから皆さんと一緒に仕事することになりますが、仕事とは英語でワークと表記します。ワークの意味には、仕事や作業の他に、作品という意味があります。仕事は皆さんが造りだす作品、皆さんしか造れない作品だと考えてください。その作品がより良い作品を造り出すためには、多くの知識を得ることと、瑞穂市に、仕事に愛着を持ってください。

瑞穂市職員として、瑞穂市に愛着と誇りと、そして今日の初心を忘れず、皆さんの活躍に期待しています。私からの訓示といたします。

令和7年4月1日 瑞穂市長 森 和 之